岩手・中尊寺境内金剛院

1　所在地　岩手県西磐井郡平泉町平泉字衣関
2　調査期間　一九九一年（平3）七月～一九九二年二月
3　発掘機関　平泉町教育委員会
4　調査担当者　及川　司
5　遺跡の種類　寺院跡
6　遺跡の年代　一二世紀・一六世紀～一九世紀
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

特別史跡中尊寺境内はJR東北本線平泉駅から北西約二kmの丘陵に位置する。中尊寺は奥州藤原氏初代清衡が建立した寺院で、平安時代末期における奥州藤原氏の東北経営を考える上での重要な歴史的意義にかんがみ、一九七九年に境内の約一三四万㎡が特別史跡に指定されている。

（水沢・一関）

標高二五m～一五〇mの丘陵地である中尊寺境内の北には衣川が東流し北上川に注ぐ。丘陵の南東には標高二二～四〇mの段丘が広がり、この段丘上に特別史跡毛越寺跡、特別史跡無量光院跡、史跡柳之御所跡をはじめとする奥州藤原氏関連の遺跡が密集している。

金剛院は国宝中尊寺金色堂の東方約七〇mに位置する支院で、本堂・庫裏の増改築のため約一九〇㎡の現状変更調査が実施された。調査の結果、一六世紀末以降の整地層を挟んで上下に遺構面があり、上面からは主に近世・近代の掘立柱建物・溝・土坑が、下面からは一二世紀前葉の掘立柱建物・溝が検出された。下面の遺構基盤には旧地形の緩斜面を切り出し、低位部に盛土して平坦面を作り出す地業が行なわれている。

下面の遺構を覆う黒褐色土層から、多くの木製品・土師質土器が出土した。木製品には漆塗椀、箸、把手、栓、扇の骨、櫛、下駄、刀子柄・鞘、へら状工具、部材、将棋の駒、立体人形、笹塔婆、木簡をはじめとする墨書・墨画のある木片などがある。土師質土器は椀と小皿の器種構成で、全てロクロ成形である。これらは平泉における手捏ね成形のかわらけ（京都系土師器）の出現以前に位置づけられる。陶磁器では国産の中世陶器は出土せず、中国産白磁壺（大宰府分類のⅡ系）が一点あるのみである。金属製品には雁又鏃、刀子、釘、鉄滓のほか、唐草双鳥文の五花鏡片がある。これらの豊富な遺物群は、特に土器の器種・形態からみて一二世紀前葉と考えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)
・「□□□咒色□
□无色名□□」
〔差カ〕
・「□□□　」
174×74×8　011

(2)
「二〔石六カ〕□斗」
240×29×10　011

(3)
・□不貴」
・□□□」
(49)×18×3　019

(4)
・「歩兵」
・「と　」
27×13×3　061

(5)
・「歩兵」
〔金将カ〕
・「□□」
31×19×3　061

(6)
・「歩兵」
・「と　」
29×16×3　061

(7)
・「歩兵」
・「□　」
29×17×4　061

(8)
・「□〔兵カ〕」
「　□」
29×17×2　061

(9)
・「香車」
・「金〔将〕□」
28×19×5　061

(10)
・「桂馬」
・「□〔金カ〕　」
31×20×4　061

(11)
・「桂馬」
・「金〔将カ〕□」
29×18×4　061

(12)
・「銀将」
・「金□」
30×19×3　061

(13)
・「銀将」
〔金将カ〕
・「□□」
30×18×4　061

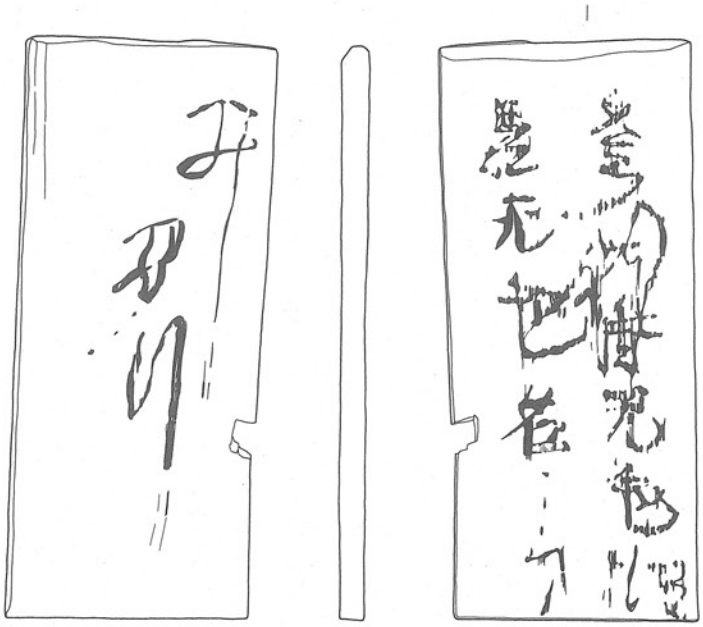
(14)
・「銀将」
・「□〔金カ〕　」
29×20×3　061

(15)
「□〔金将カ〕」
26×18×3　061

(16) ・「歩兵歩兵」 (66)×24×6 011

・「□□□」

(17) 「□□」 27×21×4 011



(1)

(4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (16)

墨画

(1)～(17)はすべて、前述した一二世紀前葉の土器群を含む黒褐色土層から出土している。(1)～(3)の木簡の意味は判然としない。(4)～(15)は将棋の駒で、この一二点の他に同形で文字の判読できないものが二点あり、都合一四点出土している。(16)は習書で「歩兵」を連書している。参考までに掲載した墨画はこれらの木簡と同一層より出土したものである。箱あるいは枡の側板と思われる部材（127×40×6）の片面に女性の全身像が描かれている。ふくよかな顔立ちの描写であるが被り物・衣装・履物は判然としない。この他に重ね書きされた絵画風のものが一点、そして筆ならしのような墨の残るものが一点あり、墨書・墨画の資料は合計二一点を数える。

当調査地点の遺跡としての性格は確定できないが、その位置や年代、そして遺物の内容よりみて、初代藤原清衡あるいは二代基衡にかけての中尊寺造営・維持に関わる僧侶や工人の存在が想起される。

現在のところ平泉町内において、確実な一二世紀前葉の遺構・遺物の検出事例は、本例を除くと皆無であり、下層の一括遺物は良好な資料となっている。

9　関係文献

平泉町教育委員会『特別史跡中尊寺境内金剛院発掘調査報告書』（一九九五年）

（及川　司）

木簡研究第一四号

八木　充

巻頭言
一九九一年出土の木簡
概要　平城宮跡　平城京左京二条二坊坊間路西側溝　平城京東市跡
推定地　唐招提寺　藤原京跡　飛鳥池遺跡　四条遺跡　長岡京跡(1)
長岡京跡(2)　長岡京跡(3)　遠所遺跡　木津川河床遺跡　大坂城跡
住友銅吹所跡　桑津遺跡　竜華寺跡　高槻城跡　堺環濠都市遺跡
屏風遺跡　長田神社境内遺跡　宅原遺跡　袴狭遺跡(1)　袴狭遺跡(2)
（旧坪井遺跡）　光明寺遺跡　西河原森ノ内遺跡　西河原遺跡　湯ノ
部遺跡　石川条里遺跡　内匠日向周地遺跡　小茶円遺跡　富沢遺跡
多賀城跡　円福寺遺跡　田道町遺跡C地点　上荒屋遺跡　山田郷内
遺跡　稲城遺跡　吉野口（鯉山小）遺跡　三日市遺跡　長登銅山跡
空港跡地遺跡（第3工区）　雀居遺跡　興善町遺跡
一九七七年以前出土の木簡（一四）
平城宮跡（第五〇・五一・五二・六三次）　上田部遺跡
郡家今城遺跡　郡家川西遺跡　じょうべのま遺跡　高瀬遺跡
考古資料としての古代木簡　山中　章
八幡林遺跡等新潟県出土の木簡　小林　昌二
木上と片岡　岩本　次郎
下級国司の任用と交通―二条大路木簡を手がかりに―　鈴木　景二
「敦煌漢簡」研究の現状と課題　吉村　昌之
彙報

頒価　四五〇〇円　〒五〇〇円